

注意報第3号

各関係機関団体の長
各病害虫防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病害虫防除所長

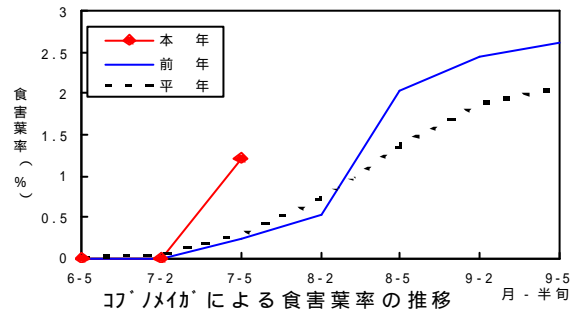
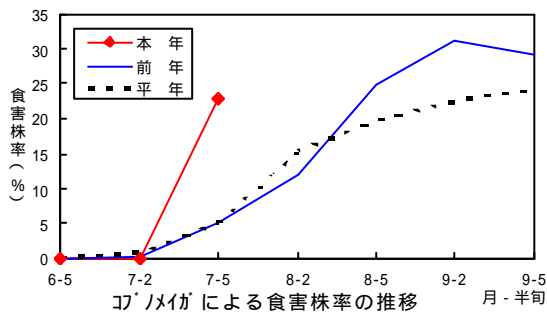
平成19年度病害虫発生予察注意報第3号について

このことについて、病害虫発生予察注意報第3号を発表したので送付します。

水稻

- 1 病害虫名：コブノメイガ
- 2 発生地域：県下全域
- 3 発生量：多
- 4 注意報の根拠

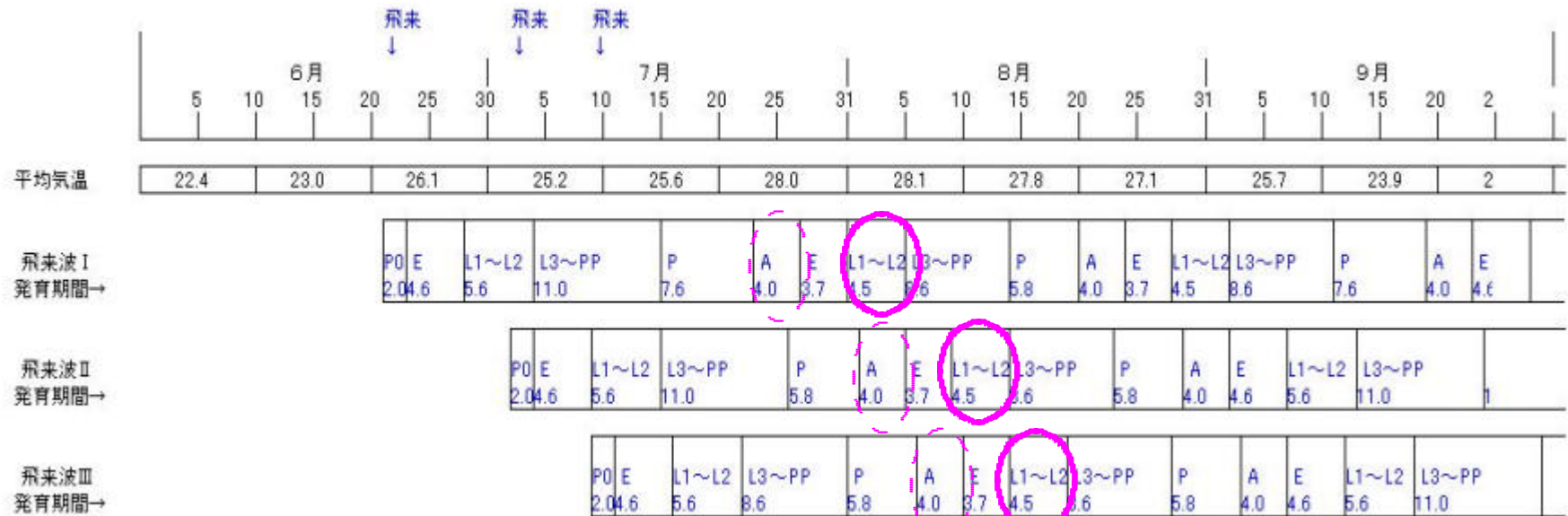
7月5半旬の定期調査（60地点、50株調査）結果
発生ほ場率 79.7%（平年 49.1%、前年 59.0%）
食害株率 22.8%（平年 5.1%、前年 5.0%）
食害葉率 1.2%（平年 0.3%、前年 0.2%）



- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) 上位3葉に被害が及ぶと登熟に影響が大きい。発生が目立つほ場は補正防除を実施する。
 - (2) トビイロウンカも断続的に飛来している。地域によっては要防除水準を超えているほ場もある。各々のほ場での発生状況を確認し、要防除水準100株当たり20頭を超えているほ場は同時防除を実施する。（別紙：トビイロウンカの発生パターン図参照）
 - (3) コブノメイガの防除適期は発蛾最盛期の約1週間後の若齢幼虫期である。主要飛来は7月3日（飛来波）～7月10日（飛来波）に断続的にみられ、これらに由来する飛来後の第一世代若齢幼虫期は8月8日～18日頃と考えられる。地域によって齢期に差があるため、発生パターン図（別紙）を参考に、各々のほ場で8月上旬に成虫の払い出し調査を行い、発蛾最盛期を把握して、最適防除時期を決める。
 - (4) 防除薬剤で粒剤の場合は発蛾最盛期、粉剤の場合は発蛾最盛期から1週間後が効果が高い。粒剤を施用する場合は効果を安定させるため散布後7日間止水する。

(別紙)

平成19年度 飛来状況に基づくコブノメイガ発生予想パターン図



PO：産卵前期間 E：卵 L：幼虫（不完全変態） PP：前蛹 P：蛹 A：成虫

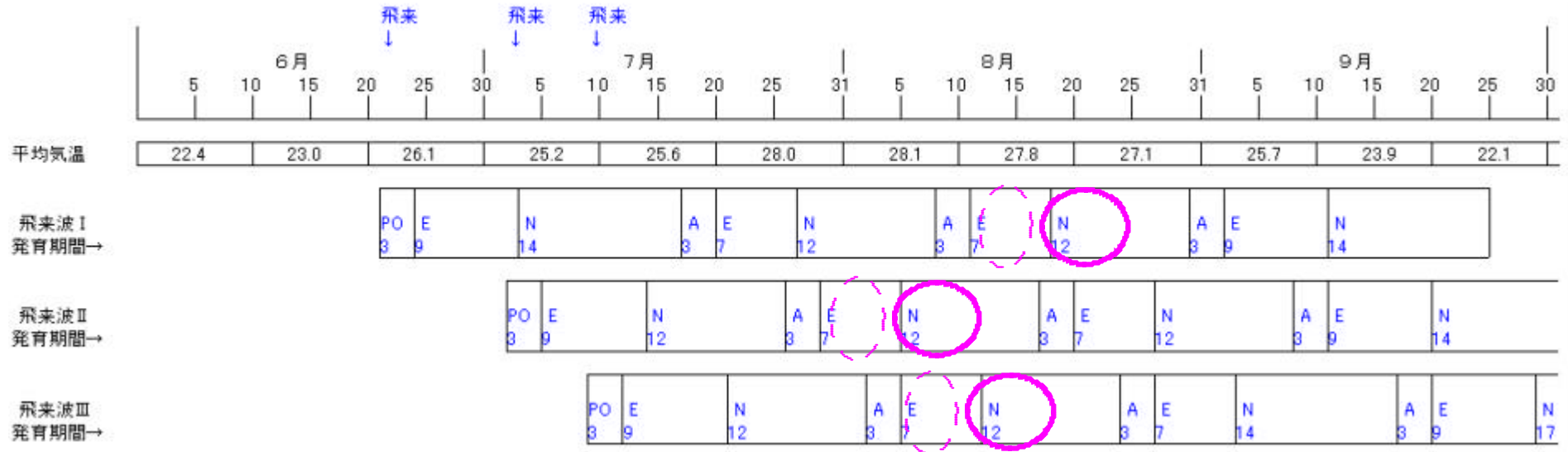
注1：発生パターン図は、主要飛来時期を起点にして、半月毎の平均気温を基に温度別の発育期間を積算して作成したものであるため、各々の地域におけるほ場での発生状況を確認の上、必要に応じて補正を加えて使用すること。

注2：コブノメイガの飛来波はウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）の誘殺状況を基に設定。ウンカ類と同時に飛来したものと推定したものである。

注3：平均気温は、福岡管区気象台福岡観測所調べ（7月中旬までは本年の数値、7月下旬以降は平年値）

注4：() は粒剤の、○ は粉剤の散布時期の目安である。

平成19年度 飛来状況に基づくトビイロウンカ発生予想パターン図



PO：産卵前期間 E：卵 N：幼虫（不完全変態） A：成虫

注1：発生パターン図は、主要飛来時期を起点にして、半月毎の平均気温を基に温度別の発育期間を積算して作成したものであるため、各々の地域におけるほ場での発生状況を確認の上、必要に応じて補正を加えて使用すること。

注2：平均気温は、福岡管区気象台福岡観測所調べ（7月中旬までは本年の数値、7月下旬以降は平年値）

注3： は粒剤の、 は粉剤の散布時期の目安である。